

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和7年第I四半期（1～3月）

設備投資：わずかに低下

資金繰り：やや悪化

採算状況：悪化に転じる

雇用人員：ほぼ横ばいで推移

来期（令和7年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では18.9%となり、やや上昇する見通しとなった。

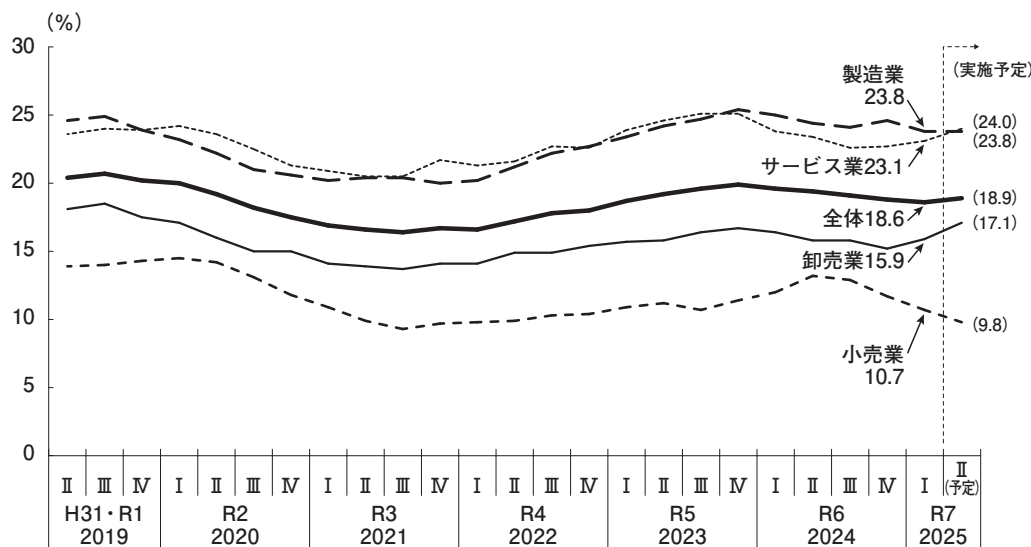
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて卸売業17.1%とサービス業24.0%はともに大幅な上昇が見込まれる。一方、小売業9.8%は大幅に低下する見通しとなった。

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和7年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は全体では18.6%となり、前期（令和6年10～12月）の18.8%からわずかに低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は小売業10.7%（前期11.7%）と製造業23.8%（同24.6%）はともに大幅に低下した。一方、卸売業15.9%（同15.2%）はやや上昇した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 — 後方4四半期移動平均 —

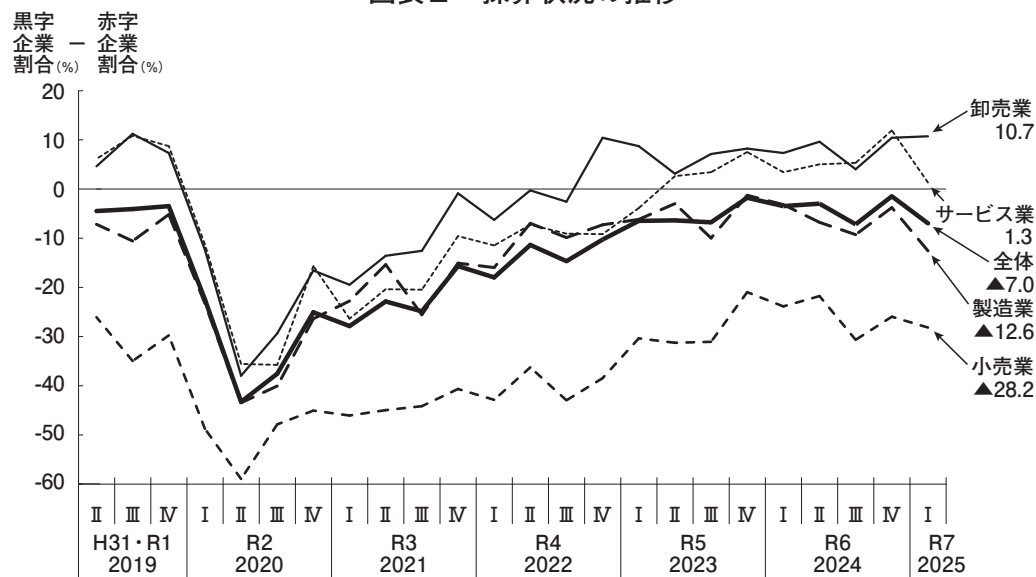


■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲7.0（前期▲1.5）となり、5.5ポイント減少し悪化に転じた。

業種別にみると、サービス業1.3（同11.9）は10.6ポイント減少、製造業▲12.6（同▲3.8）は8.8ポイント減少しともに大幅に悪化、小売業▲28.2（同▲26.0）は2.2ポイント減少しやや悪化した。

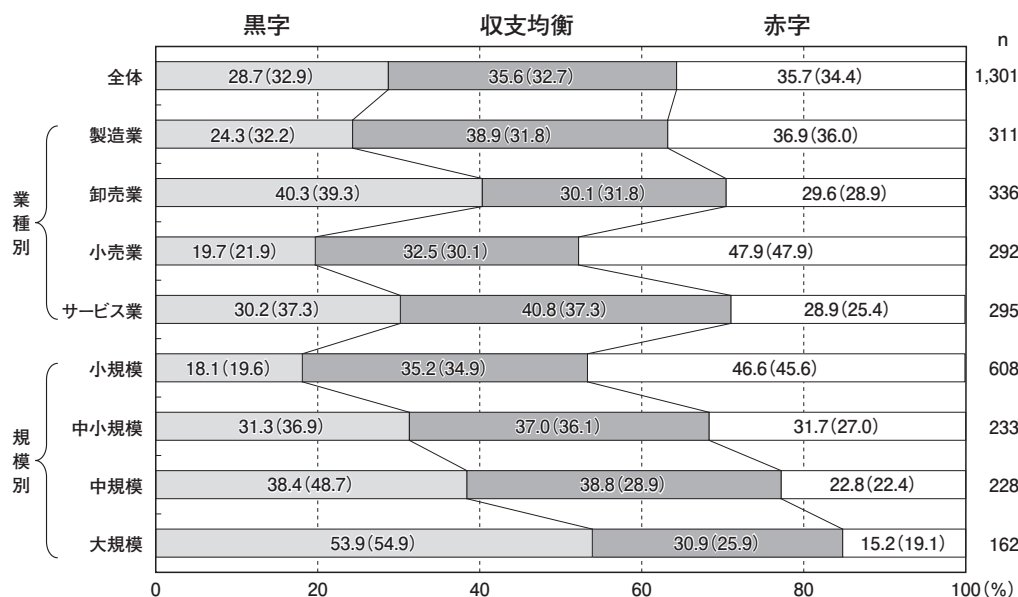
図表2 採算状況の推移



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 53.9%（同 54.9%）を占めた。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期(令和6年10~12月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

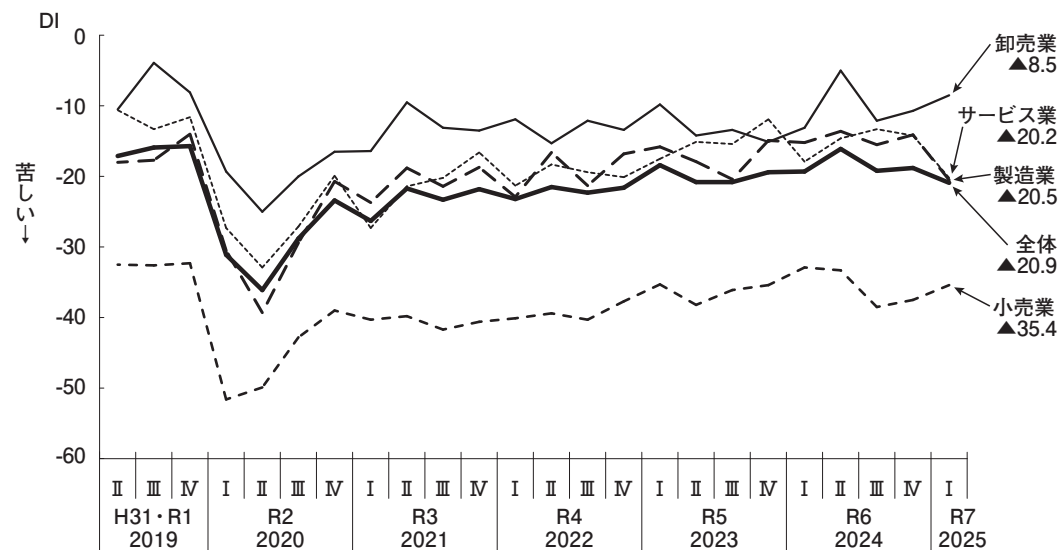
資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）でみると、全体では▲20.9（前期▲18.8）となり、2.1ポイント減少しやや悪化した。

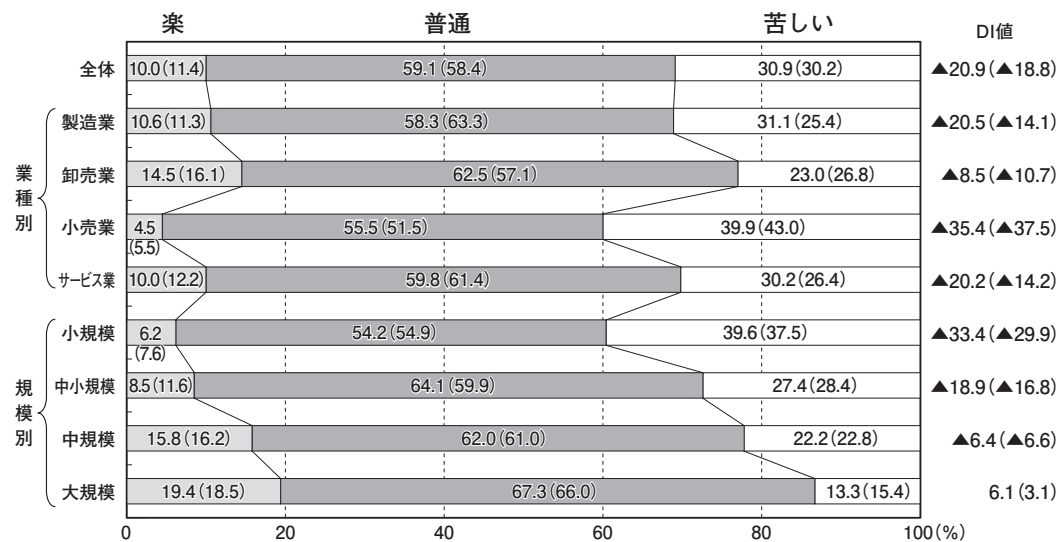
業種別にDI値をみると、製造業▲20.5（同▲14.1）は 6.4ポイント減少、サービス業▲20.2（同▲14.2）は 6.0ポイント減少しともに大幅に悪化した。一方、卸売業▲8.5（同▲10.7）は 2.2ポイント増加、小売業▲35.4（同▲37.5）は 2.1ポイント増加しともにやや改善した。

規模別にDI値をみると、小規模▲33.4（同▲29.9）は 3.5ポイント減少し悪化、中小規模▲18.9（同▲16.8）は 2.1ポイント減少しやや悪化した。一方、大規模 6.1（同3.1）は 3.0ポイント増加し改善した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）

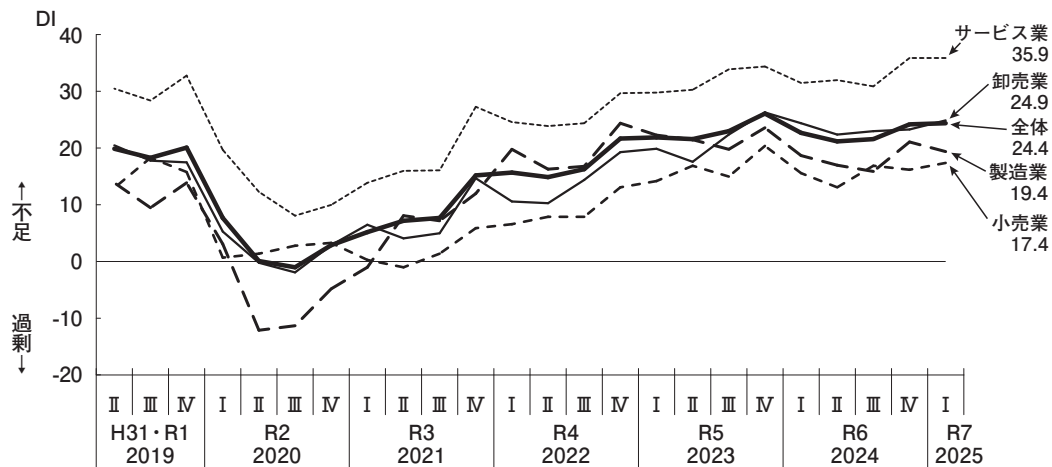


注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期(令和6年10~12月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では24.4（前期24.2）となり、ほぼ横ばいで推移した。

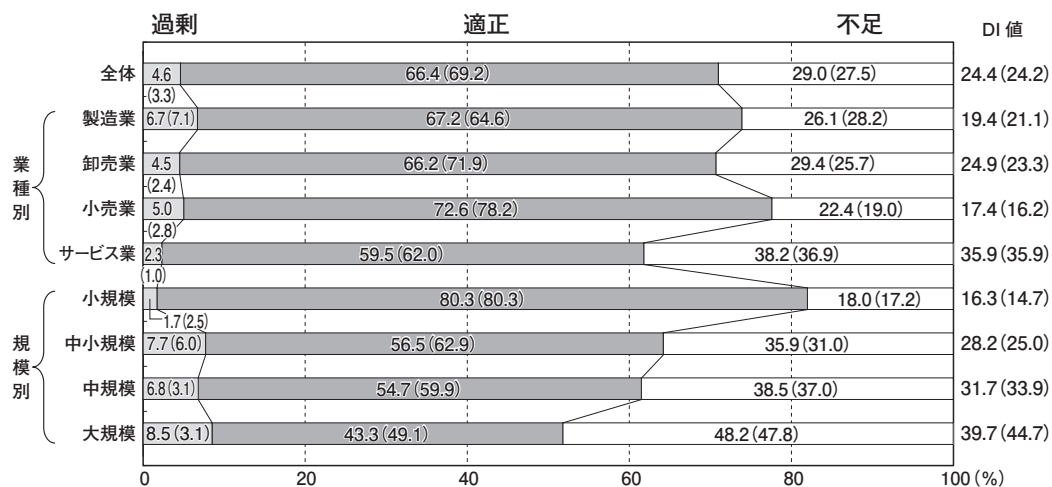
図表6 雇用人員DIの推移



業種別にDI値をみると、卸売業24.9（同23.3）は1.6ポイント増加、小売業17.4（同16.2）は1.2ポイント増加しともにわずかに上昇した。一方、製造業19.4（同21.1）は1.7ポイント減少しわずかに低下した。

規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は39.7（同44.7）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。()内は前期(令和6年10~12月)の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。